

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新技術棟	階数	地上7F
建設地	平塚市追分1-1他5筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし	平均居住人員	345 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年2月20日
敷地面積	1,089 m ²	作成者	株式会社三菱地所設計
建築面積	837 m ²	確認日	
延床面積	3,905 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.7 ★★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.7</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.1</p>

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>吹抜が2層単位で縦に連なる事務所を設計し、従業員が交流しやすい中間領域(コミュニケーションコーナー)を設けることで、社員同士のコミュニケーションや共同研究・プロジェクトがより円滑に進むような研究開発の拠点を目標とした。</p>	<p>その他</p> <p>・事務室に水配管レスの潜熱顕熱分離のパッケージ形換気機器(DESICA)を採用</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>・ミーティングコーナーに床吹出し空調方式を採用 ・会議室等の小部屋に天井空気輻射方式を採用</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>自動販売機スペースや給湯コーナー、屋上富士山テラスなど従業員が一息つける場所の充実を図った。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物高さは隣接建物と同様になるよう配慮し、建物の随所に緑化を施すことで室外環境へ配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>開口部はガラス性能の優れたものを利用することで、性能を担保している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型器具を採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物両脇に道を舗装することで、交通利便性を考慮した設計となっている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される